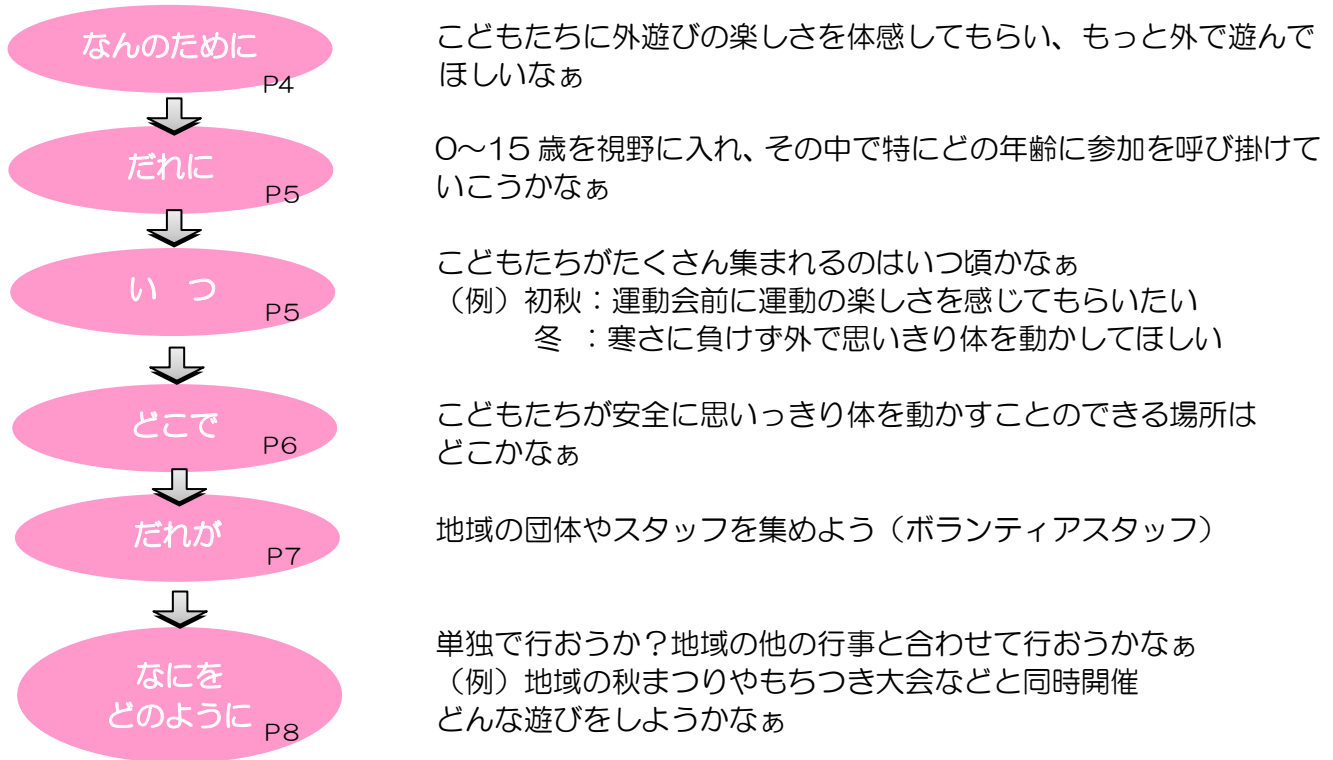


外遊びイベント開催の計画方法



<p>予算を決める P10</p> <p>↓</p> <p>広く知らせる P10</p> <p>↓</p> <p>用意するもの P11</p> <p>↓</p> <p>保険をかける P11</p> <p>↓</p> <p>資料をつくる P11</p> <p>↓</p> <p>打ち合わせをする P12</p>	<p>どれくらいの予算が必要になるかな?製作できるものや借りられる物はどれくらいあるかな?</p> <p>チラシや回覧板、ホームページやSNS*を使って知らせよう</p> <p>当日必要な物は何かな?不備はないかな?</p> <p>参加者やスタッフのけがなどに備えて保険をかける</p> <p>スタッフの担当一覧や当日の配慮等、スタッフが意識統一できるように、また不備がないように作成する</p> <p>スタッフが各担当を決め、当日の流れを把握する スタッフ全員の意識統一 準備物の最終確認をする</p>
--	---

- | | |
|---|--|
| <p>イベント当日 P12</p> <p>↓</p> <p>ふりかえり P13</p> | <p>スタッフの配置が整っているかな?
スケジュール通りに進行しているかな?</p> <p>外遊び終了後、スタッフで反省会を実施し、次回へ向けての課題等を出し合う 資料等はファイリングして保管する</p> |
|---|--|

* SNS…ソーシャル・ネットワーキング・サービス Social networking service の略。インターネットを介して、人と人とのつながりを促進・支援する Web サイト及びネットサービス。LINE・Twitter Facebook など

イベント計画から実施まで

ステップ 1 イベント内容を考える

なんのために

こどもたちが元気に育つことができるよう「こどもたちが外で元気に遊べる環境づくり」をコンセプトにして、外遊びの体験や異年齢（年齢や学年のちがう）のこどもたちが交流できるような取組を実施することで、こどもたちの“生きる力”を醸成し、子育てに対する地域理解を深めることにつながります。

異年齢のこどもたちや地域の大人たちが参加し交流できるイベントを開催することは、こどもたちが、外で遊ぶことの楽しさを感じるとともに多様な経験を育むことにつながります。また、普段顔を合わすことのない大人同士が知り合える機会にもつながります。

地域ぐるみでこどもたちを育てていくための“きっかけづくり”にしましょう。

1 目的（ねらい）を確認しましょう

イベントでどのようなことをしたいのか、どのようなことを伝えたいのかについて、地域の中で話し合い、確認し合ひましょう。この目的を確認することで、これからのイベントの企画をする上で必要なことが見えてきます。

たとえば、「こどもたちの体力づくりをする」、「異年齢のこどもたちが外遊びを楽しむ」、「地域の子育て親子が外遊びの楽しさを理解する」など。

2 目標を決めましょう

目的が定まれば、イベントを企画し実施することによって、こどもたちや子育て親子や地域の何が育つのか、どのような効果が期待できるのかを考えてみましょう。

たとえば、

「日頃から外で遊ぶこどもが増える」
「地域の大人のこどもへの理解が高まり、
主体的に子育てに関わる大人が増える」
など。



だれに

1 どのような人たちを対象として行うのかを決めましょう。

目的（ねらい）に応じて対象となる人を決めておく必要があります。参加をこどもだけにするのか、親子にするのかによっても変わってきます。

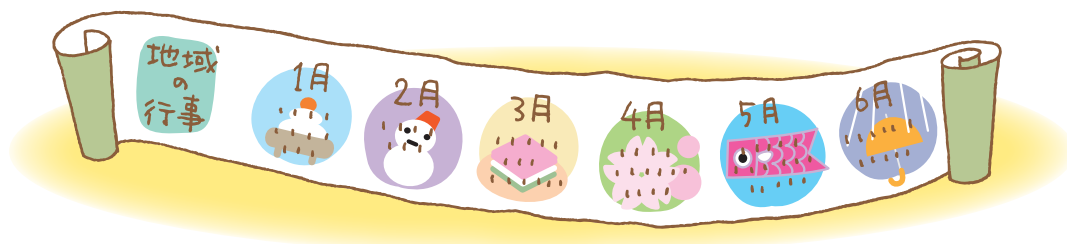
イベントを開催するにあたっては、中心となる対象者を決めてから内容を決めていく方が良いでしょう。

各年齢に合わせて遊びのレベルを変えていくなどの工夫も「なにをどのように」(P8 参照) で考えていきましょう。

最近では、同年齢で遊ぶことが多く、異年齢で関わって遊ぶ機会が少なくなっています。しかしこどもたちの育ちを考えると、異年齢が交わり群れて遊ぶことがとても良いと言われています。特に、幼児から小中学生までが一緒になって遊ぶ環境があることはとても良いことで、その中で年齢の低いこどもたちは、お兄ちゃんやお姉ちゃんを見て、刺激を受けたり憧れを持ち育っていき、年齢が高いこどもたちは自分より若いこどもたちを誘い遊ぶ中でルールを教えたり、他の人を思いやる気持ちも育まれ、ひいては自分自身も大切な存在だと気づくことができます。

2 参加人数（来場者数）を設定しましょう

おおよその来場者数を設定しておくことで、イベントの内容や場所の広さなども変わってきます。「どこで」(P6 参照) とも関わりますので、並行して考えていく必要があります。



いつ

目的や対象者が決まれば、効果的な開催時期を考えましょう。

季節や曜日などはもちろんですが、地域の保育所や幼稚園、学校の行事、地域の行事を確認し、重なる日は避けましょう。（参加人数に影響が出るため）

また、季節を考える際には、真夏の8月などは、熱中症の危険性もあり、こどもたちや高齢者には身体に大きな負担をかけることから、避けることが望ましいと考えられます。

地域の行事一覧を作成しておくのと分かりやすいうえ、年間行事の把握にもつながります。